伝聖徳太子筆『法華義疏』の書風と解釈に関する研究

芸術学研究科
945615
飯島広子

00012561

伝聖徳太子筆『法華義疏』の書風と解釈に関する実証的研究

目次

第一章　序論 …… 1
　第一節　研究の目的 …… 1
　第二節　研究の背景 …… 4
　第三節　研究の意義 …… 10
　第四節　論文の構成 …… 12
第二章　遺品の現状及び伝世の歴史的背景 …… 14
　第一節　伝世の歴史的背景 …… 14
　第二節　伝称筆者である聖徳太子との関連 …… 20
　第三節　遺品の現状 …… 25
　　(1)『法華義疏』所依の『法華経』 …… 25
　　(2)調巻に関する記述 …… 30
　　(3)「品数」、「料紙枚数」、「巻子寸法」の関係 …… 32
　　(4)「草稿本」説 …… 36
　　(5)紙質及び界線 …… 40
　　(6)紙色と改補修正貼紙 …… 42
第三章　研究の方法 …… 44
　第一節　本研究の流れと研究の方法論 …… 44
　第二節　対象資料の複製及び画像データ化 …… 48
　　(1)『法華義疏』の複製による資料の決定 …… 48
　　(2)画像データ化 …… 53
　　A　コピー資料からの入力 …… 53
　　B　複製からの入力 …… 55
　第三節　データベース構築 …… 57
　　(1)書学における汎用性を視野に入れたデータベース構築 …… 57
　　(2)異筆断定のための「法華義疏画像データベース」構築 …… 60
　第四節　文献解釈 …… 63
　　(1)歴史的背景としての文献資料 …… 63
　　(2)解釈の重要部分と異筆との関連 …… 64
　第五節　書風の先行研究 …… 66
　　(1)先行研究の調査 …… 66
　　(2)先行研究の応用と仮説の設定 …… 67
　第六節　研究アプローチの相互関係 …… 69

第四章　『法華義疏』の書風に関する先行研究と本研究の仮説 …… 72
第一節　先行研究における『法華義疏』の書風分析 …… 72
(1)書道史的概観を通して表現された先行研究の内容 …… 72
(2)具体的文字例を示して分析が行われた先行研究の内容 …… 77
第二節　本研究における分析項目の設定と改補修正貼紙 …… 85
第三節　設定された分析項目に関する先行研究の内容 …… 89
(1)巻一の冒頭、題号の部分 …… 89
(2)巻一第三十四紙、先行研究で分析された「別筆の四行」 …… 95
(3)巻四『寿量品』に見られる脇書貼紙 …… 99
第四節　装潢に関する先行研究と本研究の仮説 …… 101
(1)巻四第六紙の装潢に関する先行研究 …… 101
(2)装潢の検討と本研究の仮説 …… 103
第五節　先行研究の比較応用と巻四第六紙の書風に関する仮説 …… 107
(1)別字 …… 107
(2)様式 …… 110
第六節　本研究における分析項目と比較対象範囲の選定 …… 112
(1)書風分析の項目 …… 112
(2)比較対象となる『法華義疏』の範囲設定 …… 114
第五章　『法華経』諸疏と『法華義疏』との関連及びその解釈 …… 115
第一節　法雲の『法華義記』及び南北朝における仏典解釈 …… 115
第二節　吉蔵の『法華玄論』及び隋朝における仏典解釈 …… 121
第三節　『法華義疏』に見られる諸疏の影響と仏典解釈に関する疑念 …… 127
第六章　『法華義疏』に見られる改補修正貼紙の書風分析 …… 137
第一節　巻一の冒頭、題号の部分に関する書風分析 …… 139
第二節　巻一第三十四紙、『方便品』に見られる書風分析 …… 142
(1)巻一第三十四紙のみに見られる草書体 …… 145
(2)巻一及び巻四と字形の違うもの …… 147
(3)西川寧氏の時代策定に対する考察 …… 150
第三節　巻四『寿量品』に見られる脇書貼紙の書風分析 …… 153
(1)先行研究にて自筆とされている改補修正貼紙 …… 155
(2)後人加筆の可能性のある改補修正貼紙とその内容 …… 158
A　「示滅非實滅」又は「示滅非滅」の文を含む修正箇所 …… 160
B　①巻四第十九紙の貼紙 …… 166
C　⑨巻四第二十三紙の貼紙 …… 174
D　③巻四第二十紙の貼紙 …… 180
E　『寿量品』に見られる異筆、三箇所の相互関係 …… 184

第四節　巻四第六紙『法師品』に見られる貼紙の書風分析 …… 187
(1)字形の違うもの …… 190
(2)様式の違うもの …… 195
A 「遠」の旁の様式 …… 195
B 右はらいの強調 …… 196
C 右斜め下への強調 …… 198
D 「へ」の様式 …… 199
E 横画の連続に関する違い …… 200
(3)筆法により線質が違うもの …… 203
(4)筆法の傾向により様式の違うもの …… 205
A 右回転を排除した横画 …… 206
B 右回転を排除した縦画 …… 207
C 右回転を排除した転折 …… 209
第五節　『法華義疏』本文と巻四第六紙に見られる類似点 …… 213
(1)「快」と「決」の使用に関する混同 …… 213
(2)「阿曽祇」の記述に見られる巻四第六紙との関連 …… 217
第七章 結論 …… 221
(1)異筆の発見と先行研究との関連 …… 221
(2)書風分析との関連から想定される『法華義疏』解釈に関する疑念 …… 224
(3)新たな方法論の確立 …… 227
(4)研究環境整備としてのデータベースシステムの運用評価 …… 230

補論 …… 234
第一節　データベース構造と研究フローとの関連 …… 235
(1)データベース構築フロー …… 237
(2)ハードウェア構成 …… 238
(3)ソフトウェア構成 …… 239
(4)データベース機能 …… 240
第二節　データ構造 …… 241
(1)リレーションシップ …… 242
(2)テーブル …… 243
(3)クエリー …… 251
(4)フォーム …… 256
第三節　『法華義疏』画像データ化 …… 265
(1)コピー資料からの画像データ化 …… 266
(2)コピーモードによる複製の入力 …… 269
(3)カラー写真モードによる複製の入力 …… 274

(4)白黒写真モードによる複製の入力 …… 279
(5)紙色に関する考察 …… 281
(6)画像データ化に関する結論 …… 285
画像資料
参考文献
謝辞